

= 背景 =

オフショア開発では、大半は「日本語」でコミュニケーションがなされます。最近ではミャンマーでも、日本語を受け付けます。近年、Web サービスやスマホアプリ、軽い業務システムのオフショア開発では、ベトナムを選択する企業が急増しています。こうした「最新」のオフショア開発動向を分析すると、公式コミュニケーションは「日本語」にこだわるものの、スピードが要求される現場レベルの交流では英語が併用される実態が浮かび上がってきました。しかも、SNS やゲーム開発では、日本語人材に過剰依存しなくても仕事が回る現実もあります。

そこで、本講座では、日本語を公式コミュニケーションとしながら一部で「英語」が併用される IT プロジェクト関係者を対象に、言葉や文化の違いを超えて伝わるグローバルライティングの技法を習得します。

入門編では、正しく日本語が伝わるようになることに焦点を絞って、開発ドキュメント作成と異文化コミュニケーションの技法を学修します。

スキル実践編では、中高生レベルの英単語と文法を使ったプロジェクト推進に役立つグローバル英文ライティングの技法を習得します。そもそも日本語でも難しい微妙なニュアンスを醸し出す言い回しを、基本的な英単語だけで表現する学修内容です。

本講座の学修内容は、必ずしも「オフショア開発」や「外国人相手」を前提とするコミュニケーションに限ったものではありません。むしろ、日本人同士の会話や、沖縄と本土で分散開発するプロジェクトの円滑な運営にも役立ちます。これまで、主に「客先常駐」ばかりで、しっかりとしたドキュメントを書かずに、なかなか請負開発できなかった会社の技術者や営業担当者に本講座の受講を強くお勧めします。

<入門編>平成 28 年 1 月 29 日(金)09:30~17:30@県立武道館会議室

## 1. 技術者のためのグローバルで通じる日本語ドキュメント作成入門

- ・短い文章術
- ・文書全体の構成技法
- ・曖昧な状況や抽象的な概念を「見える化」する論理思考力
- ・言葉がなくても通じる図解ライティング技法

## 2. 自動翻訳しやすいグローバル日本語の運用

- ・日本語によるグローバルライティングの意義
- ・自動翻訳される前提で書くメール、ショートメッセージ
- ・オフショア開発で使ってはいけない NG ワード
- ・技術者が知っておくべき最低限の外国語の知識

3. 場面別に学ぶ IT コミュニケーション問題の回避策
  - ・Q&A 連絡の場面
  - ・TV 会議の場面
  - ・説明・プレゼンテーションの場面
  - ・交渉の場面
4. 外国人の誤解を減らし、作業手戻りを防ぐ日本語コミュニケーション技法
  - ・外国人に分かりやすく説明・プレゼンテーションする方法
  - ・微妙なニュアンスを含めてぎりぎりの状態で外国人と交渉する方法
  - ・プライドの高い外国人にチクリと問題指摘する方法

前半の1と2では、互いに顔が見えにくい分散環境という厳しい条件を踏まえた上で、海の向こうの技術者(海外の開発パートナーや本土のお客様)に伝わる仕様書・設計書、議事録、メールやショートメッセージ作成の技法を学習します。特に、日本語が不得意な外国人 SE が誤解しがちな日本語表現を取り揃えました。補足説明として、英語や中国語・ベトナム語・ヒンディー語・ビルマ語の特徴を踏まえて、オフショア開発の現場で実際に使われる微妙なニュアンスを醸し出す表現を紹介します。

後半の3と4は、オフショア開発最大の懸念事項である各種コミュニケーション課題を解決する手法を学習します。具体的には、Q&A 連絡、TV 会議、説明・プレゼンテーション、交渉で失敗しがちな場面を想定して、失敗の分類と発生原因の追究、効果的な対策を、事例を用いて解説します。本項目の学習によって、オフショア開発における手戻りを減らし、オフショア側チームを強力な部隊として活用できるようになることを狙います。

本講座の学修内容は、必ずしも「オフショア開発」や「外国人相手」を前提とするコミュニケーションに限ったものではありません。むしろ、日本人同士の会話や、沖縄と本土で分散開発するプロジェクトの円滑な運営にも役立ちます。これまで、主に「客先常駐」ばかりで、しっかりとしたドキュメントを書かずに、なかなか請負開発できなかった会社の技術者や営業担当者に本講座の受講を強くお勧めします。

<スキル実践編>平成 28 年 2 月 12 日(金)09:30~17:30@沖縄産業支援センター

1. 英語が苦手な技術者のための即席英文ライティング
  - ・予想される問題について質問し警戒を促す
  - ・仕様／設計について理解度を確認する
  - ・設計変更の確認、意見・理由を述べる/同意と不同意を表す
  - ・次の会議の日程と時間の確認をする
  - ・決定された経緯を説明する

2. プロジェクトマネジメント活動で微妙な言い回しを演出
  - ・進捗と課題を説明する
  - ・厳しい納期を守るよう説得し圧力をかける
  - ・日本側都合による仕様変更や追加作業を依頼する
  - ・過去と現在の結果を比較検討し、将来予測する
  - ・事実とデータを表す/理由づけをする
  
3. 英語の方が伝わりやすい提案・助言・苦言・信頼関係の構築
  - ・オフショア先からの提案を断る・否定する・不認可を表す
  - ・オフショア先からのクレームに対応する／顧客からのクレームを現場に伝える
  - ・議論において不同意の表明をする
  - ・プロジェクト振り返り会にて、温かい助言を与える／厳しく論ず
  - ・相手の面子を潰さず、言葉の壁や文化の違いを表現する
  
4. 設計やコーディングで恥をかかないために知っておくべき英語
  - ・関数／メソッド・変数の命名法
  - ・ソースコードのコメント記述法
  - ・英語でインターネット検索する際に便利な技法

本講座では、日本語を公式コミュニケーションとするオフショア開発でありながら一部で「英語」が併用されるプロジェクト関係者を対象に、中高生レベルの英単語と文法を使って、Q&A や報連相・プロジェクトマネジメントに役立つ英語運用テクニックを習得します。そもそも日本語でも難しい微妙なニュアンスを醸し出す言い回しを、基本的な英単語をもとに実践活用する英語技法も学びます。対象者は、英語が苦手な IT 関係者です。

さらに、日本人技術者が苦手とするプログラムの関数・メソッド・変数等の命名法やソースコード中の英語コメント記載法についても、いくつかの事例を交えながら具体的に使えるノウハウを学びます。本講座を受講すれば、オフショア委託先の技術者に伝わりやすい「英語的発想」による関数・メソッド・変数等の命名法をマスターできます。

なお、「英語的発想」＝「ネイティブが好む英語」ではないことをご承知おきください。